

体育科・保健体育科「球技系」「器械運動系」

体育科・保健体育科学習で、ひと工夫する ～教材化～

期待できる効果

●こんな子どもの姿を期待できます

- ・生涯にわたってスポーツに親しむことのよさを実感する子ども
- ・オリンピック・パラリンピックに関心をもつ子ども
- ・物事に粘り強く取り組むことの大切さを理解する子ども

1 球技系・ネット型 「風船バレー」

体育科・保健体育科「ゲーム・ボール運動・球技、ネット型」の学習で、バレーボールをもとにして工夫したゲームを行いました。基本的なルールは、北九州発祥である「風船バレーボール」公認ルールに基づいて設定しました。協会公認の大きな風船がボールで、全員が必ず触れてから〇回以内で返すというルールでした。各チームには、特別支援学級の子どもが必ず所属し、異学年の交流学習として単元を仕組みました。この教材で学習した子どもたちは、みんなでボールを落とさないように繋いで勝敗を競い合う楽しさや、特別支援学級の友達と交流する楽しさを味わうことができました。また、ボールが風船であることが、プレーへの安心感を高めたり、落下地点へ移動する動きやカバーする動きを高めたりすることに有効でした。一人一人の技能差を認め合い、支え合ってチームワークを高めていく学びもできました。休み時間にも交流した友達同士で遊ぶ姿がみられました。

2 跳び箱オリンピック

体育科（第1学年・マットを使った運動遊び）（第2学年・跳び箱を使った運動遊び）（第3学年・跳び箱運動）等の学習で、オリンピックや金メダルを教材化の視点に生かしました。五輪の5色の名前を付けた遊びコーナーで、できるようになった遊び方の色シールを集めて、クラスみんなで五輪マークを作りあげていくという工夫を行いました。また、別の単元では、金色のシールで取り組み、クラスみんなで大きな金メダルを作りあげるといった目標設定の工夫も行いました。オリンピックコースに挑戦し、跳び箱金メダリストを目指すという教材化の工夫も行いました。また、道徳科と関連させ教科横断的に取り組みました。運動への意欲が高まり、繰り返し挑戦する姿もみられました。



ココがポイントです！

- ①教材化の視点にオリンピックの要素を取り入れることは効果が上がります。
- ②ゲームの教材化に、障がい者スポーツを取り入れることは有効です。
- ③日頃の体育科・保健体育科学習指導の教材化をする際、「オリ・パラ」のエッセンスを入れると効果が高まります。

ネット型の教材「風船バレー」



▲風船ボールを使って、全員が必ず1回は触れて〇回以内で返すという規則の工夫



▼教員の補助を受けながらボールをつなぐ子ども

器械運動系の教材化



▲金シールを集めて金メダルを作る

▲五輪の5色のコーナーの説明の様子

